

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月10日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|------------|
| 事業所番号 | 0970200663 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人美明会 | | |
| 事業所名 | 特別養護老人ホーム義明苑 グループホームくぼた | | |
| 所在地 | 栃木県足利市久保田町1220-1 (電話) 0284-74-2131 | | |
| 評価機関名 | 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 栃木県宇都宮市若草1-10-6 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年8月26日 | 評価確定日 | 平成20年9月10日 |

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------|-------------------------------|-----|
| 開設年月日 | 平成14年4月1日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 10 人 | 常勤5人(うち兼務1人), 非常勤5人, 常勤換算7.7人 | |

(2) 建物概要

| | |
|------|-----------|
| 建物構造 | 木造 |
| | 1階建ての1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|-----------------|------------|------------|---|
| 家賃(平均月額) | 8,100 円 | その他の経費(月額) | ・光熱費—500円/1日 ・日用品, 共益費—400円/1日 ・おむつ代—実費 |
| 敷金 | 無 | | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 無 | 有りの場合償却の有無 | — |
| 食材料費 | 朝食 | 400 円 | 昼食 400 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ 100 円 |
| | または1日当たり 円 | | |

(4) 利用者の概要(平成20年8月1日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|-----|------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 | 名 | 女性 | 9 名 |
| 要介護1 | 1 名 | 要介護2 | | 4 名 | |
| 要介護3 | 2 名 | 要介護4 | | 2 名 | |
| 要介護5 | 名 | 要支援2 | | 名 | |
| 年齢 | 平均 89.1 歳 | 最低 | 85 歳 | 最高 | 98 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------------|
| 協力医療機関名 | 長崎病院、かめいクリニック |
|---------|---------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは田園に囲まれた静かな環境の中に位置している。同法人の特別養護老人ホームやケアハウス、デイサービスセンター、地域包括支援センターが隣接している。ホームは木造で天井が高く、天窓もあり、自然の光を取り入れる工夫がされている。「ゆったり生きる。うっとり味わう」をホームの運営理念として掲げており、朝礼では運営理念を最初に唱和し、職員は全員で理念を共有し、日々、その人らしく暮らし続けることを大切にしている。毎月第3日曜日に実施している「おやつバイキング」にはほとんどの家族が参加をしており、家族会のような状況となっており、各家族が職員に率直に意見や要望等を話せる機会となっている。運営推進会議を活用して老人会やサロン会等の地域の人々との交流を増やしながら、地域に密着したホームづくりを計画的に行なっている。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 便りである「だんらん」を作成し、家族への配布を行なった。年4回程度の作成を予定している。入居者の重度化に伴い、外出が困難になってきていることを運営推進会議で相談し、地域の方にホームに来てもらって交流する機会として、老人会の協力を得ながら「サロン会」の方との交流も始まっている。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 管理者が交代したこともあり、前回の評価を参考にまとめ、職員に確認してもらう形で今回の自己評価を実施した。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 運営推進会議はホーム内(ホール)で行っており、自然と入居者が一緒にいられる工夫がされている。そのため、入居者も会議に参加しており、その他に老人会会長、民生委員、市役所担当者、地域包括支援センター職員がメンバーになっている。2ヶ月に1回の定期的開催をしており、ホームの様子や課題について積極的に話し合っている。入居者の重度化が見られ、外出が困難になっている状況を報告したところ、「サロン会」の紹介があり、その方たちとの交流が始まった。 |
| 重点項目③ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 8月からホームだよりである「だんらん」を発行し始めた。毎月第3日曜日の「おやつバイキング」が定着しており、家族のほとんどが参加している状況であり、家族の要望や意見も自然に話せる機会・雰囲気となっており、職員も積極的に聞き入れるよう努めている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 月1回のクリーン活動を実施したり、年1回開催される「ふれあいのつどい」等に参加したり、法人全体で行われる納涼祭に地域の方へ案内をしている。7月にはサロン会との交流も始まり、また法人としてもプロジェクトを組んで地元の人々と交流する機会を増やそうと努力している。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「ゆったり生きる、うっとり味わう」というホームの理念をホールや事務所に掲示しており、ホームを家として考えながら地域の中でその人らしく暮らし続けることに努めている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 朝礼の最初に理念を唱和して全職員が理念を共有している。以前は朝礼の最後に理念を唱和していたが、管理者交代後は朝礼の冒頭に唱和するようにした。管理者（兼計画作成担当者）も夜勤をするなど、職員が一丸となって理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 老人会との交流を深めながら月1回のクリーン活動、年1回市内で開催される「ふれあいのつどい」等に参加をしている。7月には「サロン会」との交流も始まり、法人全体としてもプロジェクトを立ち上げ、地域とのつきあいを計画的に進めている。また、法人全体で行なわれる納涼祭には地元の方を招待している。 | ○ | 運営推進会議等の場を活用しながら、自治会や地元の年間行事、近隣の学校等との交流も検討するなどして、より一層、地域に馴染み、またホームに気軽に寄ってもらえるような関係づくりに取り組んでいくことにも期待したい。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者が交代して日が浅いこともあり、前回の結果を参考に管理者がまとめ、全職員に見せて確認してもらっている。法人全体では事業所ごとに年度計画での目標設定・自己評価も行なわれており、具体的な改善に取り組んでいる。 | ○ | 外部評価は全職員の気づきの機会、また意識あわせの機会にもなるため、職員が部分的にでも参加をして自己評価を行い、結果を周知するような取り組み方にも期待したい。 |

特別養護老人ホーム義明苑グループホームくぼた

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|--|----------------------|---|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議はホーム内（ホール）で行っており、自然に入居者との交流ができる環境となっている。2ヶ月に1回の開催をしており、ホームでの様子の報告のほか、メンバーにホームの課題の相談も投げかけている。メンバーから「サロン会」の紹介があり、交流も始まるなど、具体的な取り組みにもつながっている。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市へのホームの課題の相談や連絡、報告を管理者を中心に行っている。市からは敬老会の問い合わせなどもあり、連絡は随時行なっている。 | ○ | 市担当者との行き来する機会を作りながら、地域の資源等の情報や活用法を教えてもらったり、協力してもらうなど、ともにサービスの質の向上に取り組めるような働きかけをしていくことにも期待したい。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 8月に入り、ホーム便りである「だんらん」を作成した。「だんらん」は年4回の発行を予定しており、家族への報告にも活用している。また、個人的な写真はアルバムを作成したり、家族にさし上げたりしている。毎月実施している「おやつバイキング」には多くの家族が参加しており、その機会を活用しながら家族等への報告を行なっている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 月1回の「おやつバイキング」を活用しながら意見や要望等が自由に言える機会・雰囲気をつくっている。意見等はその都度、連絡ノートや申し送りの際に職員間で共有し、また月1回の寮母会議で話し合われている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 法人内では年1～2回の人事異動があるが、馴染みの存在を大切にしており、ホームの人事異動は最小限となっている。また、離職率も低い。異動した際も行き来をすることでダメージを防ぐ配慮をしている。 | | |

特別養護老人ホーム義明苑グループホームくぼた

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|---|----------------------|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人として人材育成プロジェクトがあり、月1回の法人内研修が企画されている。また、ホーム独自でも寮母会議を活用して勉強会の時間をもっている。個人研修計画書を作成しており、外部研修も積極的に受けられるよう配慮している。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 県のグループホーム協会に加入しており、研修や交流の機会を増やし、サービスの向上に努めている。また、外部研修などで同業者との交流の機会を得ている。 | ○ | 今後、職員全体で地域の同業者との交流を持ち、サービスの向上につながるような取り組みを検討していくことを期待したい。 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 家族やケアマネジャー等からの相談には積極的に応じており、入居者の馴染みの家具や布団、テーブルなどを自由に持ち込みながらホームに馴染めるように工夫している。 | ○ | 入居者が1日でも早く馴染めるよう、例えば入居が見込まれる同法人のデイサービス利用者であれば日中をホームで過ごすなど、段階を経て入居につながるようにしたり、とホームに徐々に馴染めるような支援方法を検討していくことにも期待したい。 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 昔の出来事、物を大切にする気持ち、包丁等の調理器具の使い方などを教えてもらっている。入居者ができる洗濯物たたみや野菜の皮むき等、職員と一緒にしながら、入居者・職員が支え合う関係を築いている。 | | |

特別養護老人ホーム義明苑グループホームくぼた

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|----------------------|--|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者の生活リズムや生活習慣を大切にして、「今、本人はどうなのか？」という視点に立って一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。十分に聞き出すことが難しい場合には家族にも相談して、本人本位に検討している。 | ○ | 入居して6年が経過している方もおり、生活の中で自然と思いや意向の把握を行なっているが、センター方式のアセスメント等を活用しながら、再度、職員全体で聞き取りや書面化をして、入居者の全体像を職員間で共有していくことにも期待したい。 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 月1回の寮母会議を活用しながら、日々のケアでの気づきを話し合い、本人や家族、主治医からの意見も取り入れて介護計画を作成している。 | ○ | 管理者（兼計画作成担当者）は、本人、家族、必要な関係者と話す機会を多く持って介護計画に反映させたいと考えている。特に入居初期に際しては、サービス事業所等との連携を図り、情報を収集できるような体制や現在の計画であっても他機関の助言が得られるような取り組みをしていくことに期待したい。 |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 入居者9名分の年間計画の一覧表を作成して、3ヶ月、6ヶ月のモニタリングも計画的に行なっている。変化が生じた場合には随時作成して、月1回の寮母会議で職員全員に周知している。また、毎日、計画が実行されているかをチェックする取り組みをしている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 家族の面会時間も自由であり、本人が外出を希望した際には、実現できるよう努めている。また、併設施設との連携もあり、法人全体で状況や要望にあった対応ができるようになっている。 | | |

特別養護老人ホーム義明苑グループホームくぼた

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ホームの主治医が週1回往診に来ており、変化があれば誰でも受診が可能となっている。以前からのかかりつけ医がある入居者は家族が通院対応することとなっているが、急な場合等は職員が対応することもある。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 「看取りに関する指針」を作成しており、初期段階での同意書と状況が悪化した際の同意書の2段階の同意書を作成している。主治医や家族等との話し合いを行い、全員で方針を共有しているが、実際に終末期に対応出来るケアは確立できていない。 | ○ | 実際に看取りに対応するための知識や技術を全職員が習得できるような研修等の企画・実施に期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 職員は、入居者一人ひとりのペースを尊重しながら、言葉かけ等、穏やかに行なっている。また、記録等は事務所のスチール製戸棚に収納しており、プライバシーの確保を徹底している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 例えば起床、就寝時間を特に決めていないなど、入居者のペースを尊重している。入居者ができることを一緒に行なうことを大切にして、どのように過ごしたいのかを把握しながら支援している。 | | |

特別養護老人ホーム義明苑グループホームくぼた

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|------|---|--|----------------------|---|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 野菜の皮むき、テーブル拭き、食器の後片付けなど入居者と一緒に準備や片付けをしている。献立は入居者の希望を取り入れながら職員が作成している。職員は入居者と一緒に同じ物を食し、さり気ないケアも行っていた。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 基本は14:00から16:30までが入浴の時間となっており、1日おきに入浴してもらえるよう促している。1番に入りたいという希望者が4名いるため、話し合いをしながら順番を決めている。菖蒲湯やゆず湯等の季節感のある入浴も取り入れている。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 洗濯物たたみ、食材を切る・皮むき、テーブル拭き、足元の掃除等、入居者が出来る範囲での役割がある。ビデオやボール等も自由に手に取ることができるようになっており、習字や生け花の機会もつくっている。また、音楽演奏のボランティアが来て演奏してくれることもある。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 入居者の身体的な機能の低下が著しいため、外出が困難となっているが、天候に合わせて庭に出て日光浴をするなどしている。また、ゆっくりとしたペースで20～30分の散歩をすることもある。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 夜間の防犯上の施錠以外は、居室と玄関には施錠をしていない。道路に面している門は1日を通して施錠されている。全職員、鍵をかけることの弊害を理解しているが、門の開放までには至っていない。 | ○ | 見守りを徹底しながら、地域の方の協力体制づくりなども検討していくことにも期待したい。日中の門の施錠について検討し、入居者の更なる自由な暮らしを支えたり、地域の方を招き入れやすい雰囲気づくりをしていくことにも期待したい。 |

特別養護老人ホーム義明苑グループホームくぼた

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|--|----------------------|---|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | ホーム独自で避難訓練を毎月実施している。また、法人内では併設施設と合同で年2回の消防訓練も実施している。 | ○ | 今後、法人として地域の人々との合同防災訓練の実施を予定している。ホームとしても運営推進会議等を活用しながら、日ごろから地域の人々の協力が得られるような働きかけをしていくことに期待したい。 |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 職員が献立を作成し、法人内の管理栄養士の助言を受けている。食事量のチェック表を作成している。チェック表の様式を見直し、今後は水分量のチェックを行うことも予定している。水分を摂りたがらない方に対しては、ゼリーをつくるなど、適切な水分補給ができるよう工夫している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 天窓があり採光に工夫が見られる。音や光の加減は、入居者に聞きながら調節している。窓の開け閉めで換気が適切に行われており、空気のよどみ等もなかった。また、共用の空間には季節の飾りや花が生けられており、居心地よく過ごせるよう配慮されている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 持ち込みは自由であり、テレビやテーブル、タンス、かけ布団などの使い慣れたものを思い思いに置いている。持ち込む物の少ない方に対しては本人や家族と相談しながら居心地よくする配慮がされている。 | | |

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。